

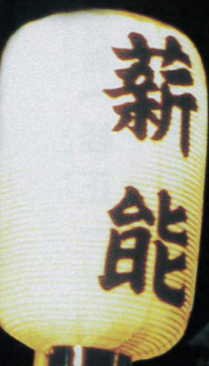
第53回

新能

姫路城

たきぎのう

姫路お城まつり協賛



《番組》

能 経 正
つねまさ
吉井基晴
福王知登

狂言 太刀奪
たちうばい
茂山千五郎

能 三 輪
みわ
上田拓司
江崎欽次朗

火入れ式

日時

2024年 5月17日(金) 午後6時00分始

午後5時00分～親子教室発表会を開催

場所

姫路城 三の丸広場 (特設舞台)

雨天の場合は、姫路市市民会館にて開催*

*席数が限られている為、賛助ご招待券をお持ちの方からの優先入場となります。

YouTube 姫路城新能
チャンネルもご覧ください

姫路城新能 検索



案内図 JR姫路駅・山陽電鉄姫路駅から徒歩15分
■題字：清元秀泰姫路市長 揮毫

ホームページ <http://himeji-takiginou.org/>



当公演は能の鑑賞をサポートする「能サポ」に対応しています

入場無料*

- 〔主催〕 姫路新能奉賛会
- 〔協賛〕 江崎福王会・姫路能家会・上田観正会・大倉華月会
- 〔後援〕 お城まつり奉賛会・兵庫県・姫路市・姫路市教育委員会・姫路商工会議所・公益財団法人姫路市文化国際交流財団・姫路信用金庫ひめしん文化会

*広告協賛席の後に無料席を設けております。
*協賛席をご希望の場合、当日協賛も受付けております。

観世流能「経正」

京都・仁和寺御室御所に仕える行慶(ぎょうけい)僧都は、法親王の命により、一の谷の合戦で討ち死にした平経政(経正)(たいらのつねまさ)を弔うこととなりました。そこで琵琶の名手として知られた経政が愛用した青山(せいざん)という銘の琵琶を仏前に据え、管弦講[※]を執り行います。

経政の成仏を祈る音楽が響き、夜半を過ぎた頃、燈火(とももしび)のなかに人影がほのかに見えてきました。不思議に思った行慶がどういふ方が現れたのかと問うと、その人影は、「経政の幽霊である、お弔いの有難さに現れたのだ」と告げるのでした。

行慶が声の方へ向くと、人影は陽炎のように消えて声ばかり残ります。なお行慶が消え残る声と言葉を交わすと、亡霊は、花鳥風月を愛で、詩歌管弦に親しんだ在りし日を懐かしみます。そして青山の琵琶を奏で、舞うなどして往時の様子をあらわにし、夜遊の時を楽しむのでした。しかしそれも束の間。修羅道に堕ちた身には、憤りの心が起ります。経政はあさましい戦いに苦しむ姿を見せ、その身を恥ずかしく思つて人に見られまいと燈火を消し、暗闇に紛れて消え失せていきました。



能「経正」

※管弦講とは、管弦の楽器により音楽を奏して死者を弔う法事。

大蔵流狂言「太刀奪」

北野天満宮の「お手水(おちようす)」の神事の日、参詣に出かけた主人と太郎冠者。途中でよい太刀を持った男を見かけ、その男の太刀を奪おうと計画します。

太郎冠者は市をのぞいている男の太刀に手をかけますが、逆に脅され、主人から預かっていた刀を奪われてしまいます。

奪われた刀を取り戻すため、二人は男を待ち伏せし、捕まえようとしますが……

「泥棒を捕らえて縄を縛う」という諺を舞台化した狂言です。京都北野天満宮の「お手水(おちようす)」神事の日には、今という朝市が出て大変な賑わいでした。現在も7月7日に「御手洗祭」が行われています。



狂言「太刀奪」

観世流能「三輪」

大和国三輪の里(今の奈良県桜井市付近)に玄資(げんびん)という僧がすんでいました。玄資の庵に、櫛(しきみ)を持ち、水を汲んで毎日訪ねる女の人がありました。玄資が不審に思い、名前を尋ねようと待っているところへ、今日もその女性がやってきました。折しも秋の寂しい日のことでした。

女の人は玄資に対して、夜も寒くなってきたので、衣を一枚くださいと頼みます。玄資はたやすいことだと、衣を与えました。女の人が喜び、帰ろうとするので、玄資はどこに住んでいるのかと尋ねました。女性は、三輪の麓に住んでいる、杉立てる門を目印においでください、と言ひ残し姿を消しました。

その日、三輪明神にお参りした里の男が、ご神木の杉に玄資の衣が掛かっているのを見つけ、玄資に知らせます。男の知らせを受けた玄資が杉の立つところに来ると、自分の衣が掛かっており、歌が縫い付いてあるのを見つめます。そのとき、杉の木陰から美しい声が出て、女性の三輪の神が現れました。三輪の神は玄資に神も衆生を救うため

に迷い人と同じような苦しみを持つので、罪を救ってほしいと頼みます。そして、三輪の里に残る、神と人との夫婦の昔話を語り、天の岩戸の神話を語りつつ神楽を舞い、やがて夜明けを迎えると、僧は今まで見た夢から覚め、神は消えていきました。



能「三輪」